

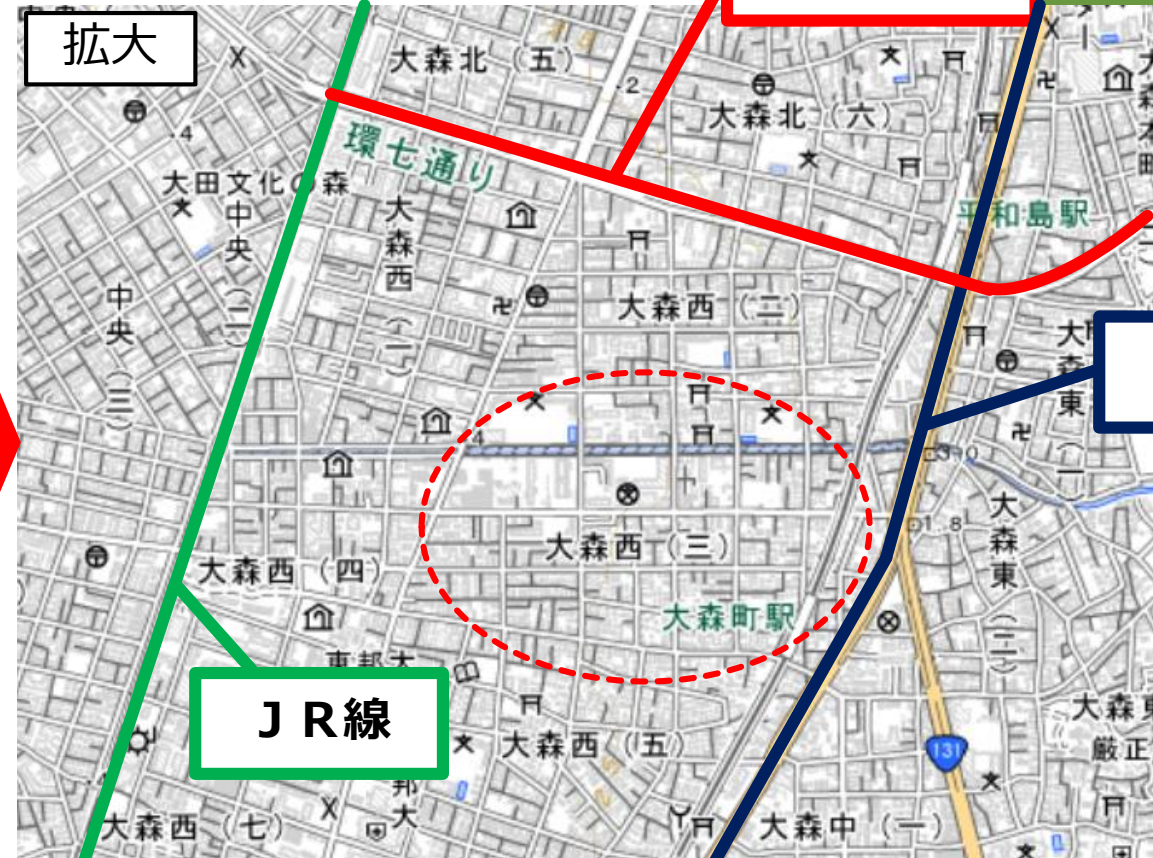
「まちかど防災訓練」で 地域の防災力をステップアップ!!



大森三丁目連合町会

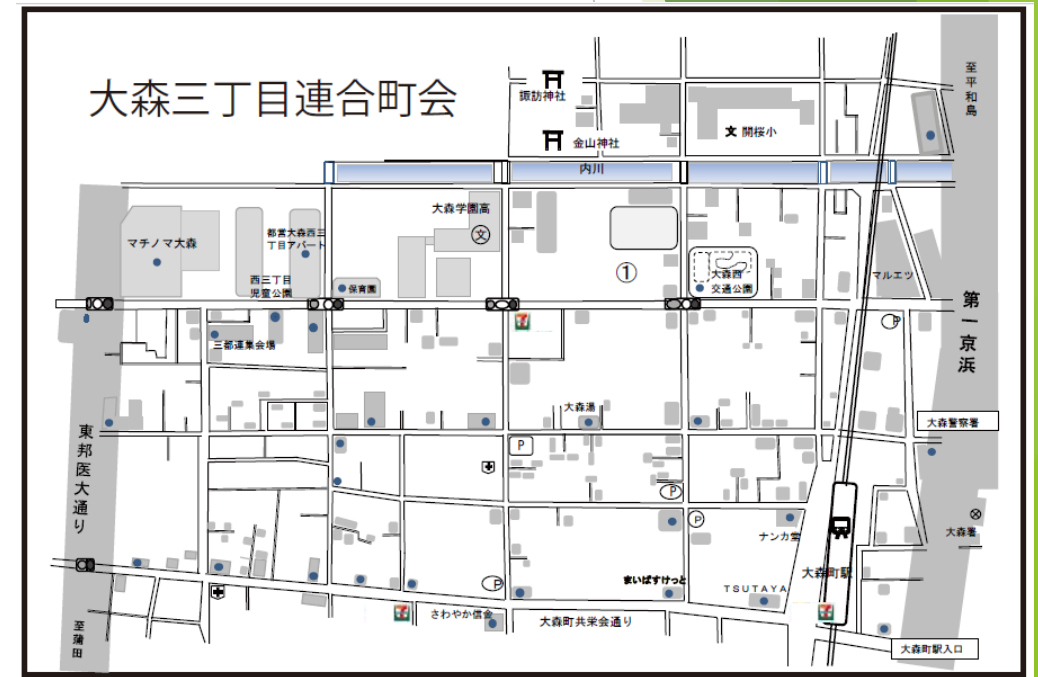
【町の概要】

本町会は、大田区の中央やや東に位置する大森西地区にあり、この地区は、北に環状7号線、東に第一京浜、西はJR線に囲まれ、道幅は狭く住宅と町工場が混在します。



【人口構成】

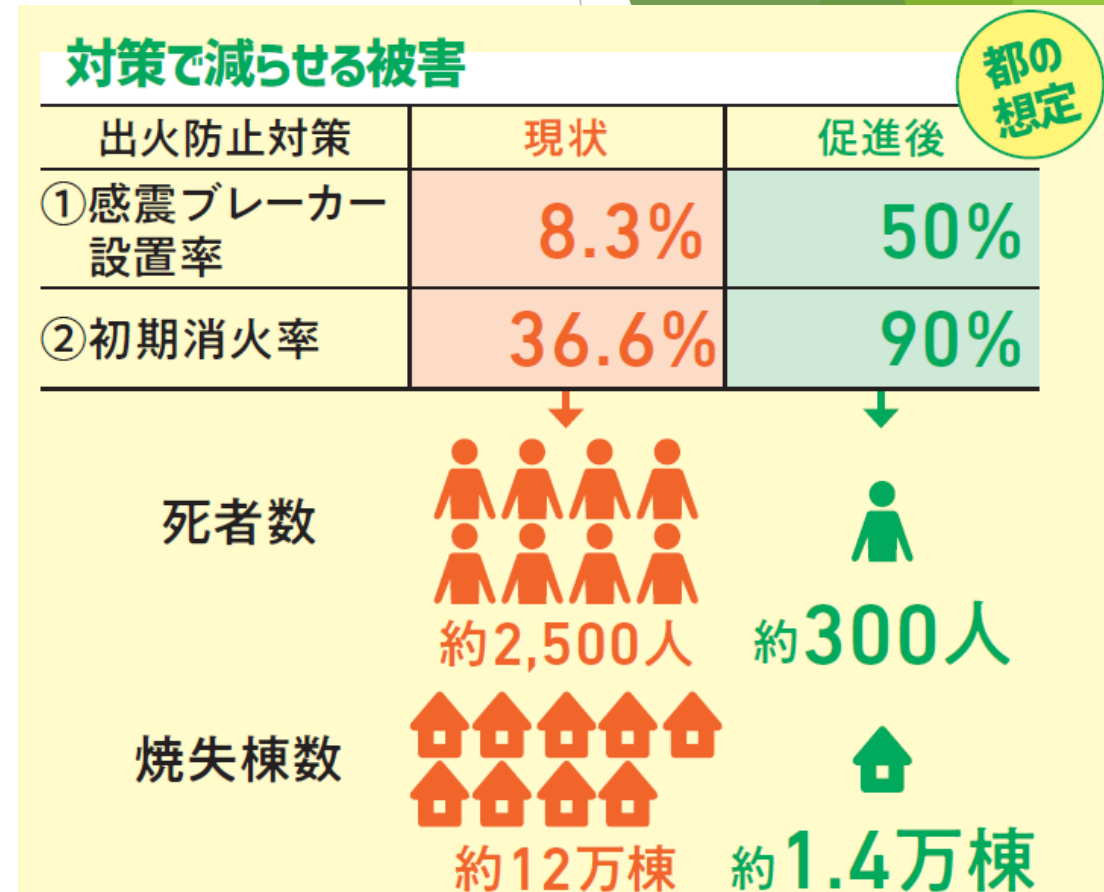
人口は区内で最大級であり、他地区に比べ高齢者等のいわゆる避難行動要支援者の人数も多い地域特性から、大規模災害時における救護、消火活動及び避難行動への対策が被害軽減に重要となっています。



【新たな被害想定と被害軽減効果】

令和4年5月に約10年ぶりに新たな「首都直下地震等による東京の被害想定」が公表されました。そこでは、防災減災対策による被害軽減効果の推計が示されています。

出火防止対策を推進することで、地震時の火災による被害を約9割まで減少させることができるとされています。



【初期消火率の向上】

ここで着目したいのが、「初期消火率の向上」です。

一人でも多くの住民が初期消火を実施できるようになることが、震災時においても、火災による被害を大きく減らすことができるということです。

そのためには、防災訓練に参加して、初期消火訓練を実践し、住民一人ひとりの初期消火能力を向上させることが重要となります。



【従来の防災訓練】

従来の訓練は集合型防災訓練と呼ばれ、「決められた時間と場所で」「消防署が用意した材料・資器材を活用し」「資器材が使えるようになる」ことを目的として実施されているため、参加者は受け身となりがちです。

しかし、有事の際に自分達で街を守っていくためには、「もう一歩踏み込んだ訓練」が必要となります。



【スタンドパイプの有効性】

スタンドパイプは軽量で使用も容易であり、狭隘路でも使用可能であるため、1部屋程度の火災であれば、短時間で効果的な消火活動が行えます。

ただし、地震による水道管破裂等により消火栓が使用不能となった際には使用できません。

大森西地区では個人宅、マンションの玄関に2基設置しており、緊急時にはどなたでも使用できる体制です。



【まちかど防災訓練の実施】

今年度は、これまで継続してきた訓練の総括として、自分たちの町の中に想定火点を設定し、「まちかど防災訓練車」を活用した放水訓練を実施するなど、実践的な発災型防火防災訓練「まちかど防災訓練」を実施しました。



【まちかど防災訓練の特徴】

「まちかど防災訓練」の特徴は

- ・ 住民自らが防災訓練の企画立案を実施
 - ・ 訓練会場は住民生活区域周辺（道路や空地）
 - ・ 訓練資器材は地域にある身近なものを使用
 - ・ 訓練時間に応じ、各種の訓練が組合せ自由
 - ・ 町会・自治会から学校区単位まで幅広い訓練設定が可能
- といった点が挙げられます。



【まちかど防災訓練の効果】

市民防災研究所資料によると

- 自分たちの住む街中で実際の水利、資器材の置いてある場所等を確認把握しながら実施することで、地域内の防災行動力を大きく高めることができる。
 - 居住区に近い住民同士で実施することから、住民相互の連携強化や避難時に支援が必要な人の把握等、多くのメリットがある。
- といった効果が挙げられています。



【訓練範囲の広域化によるデメリット】

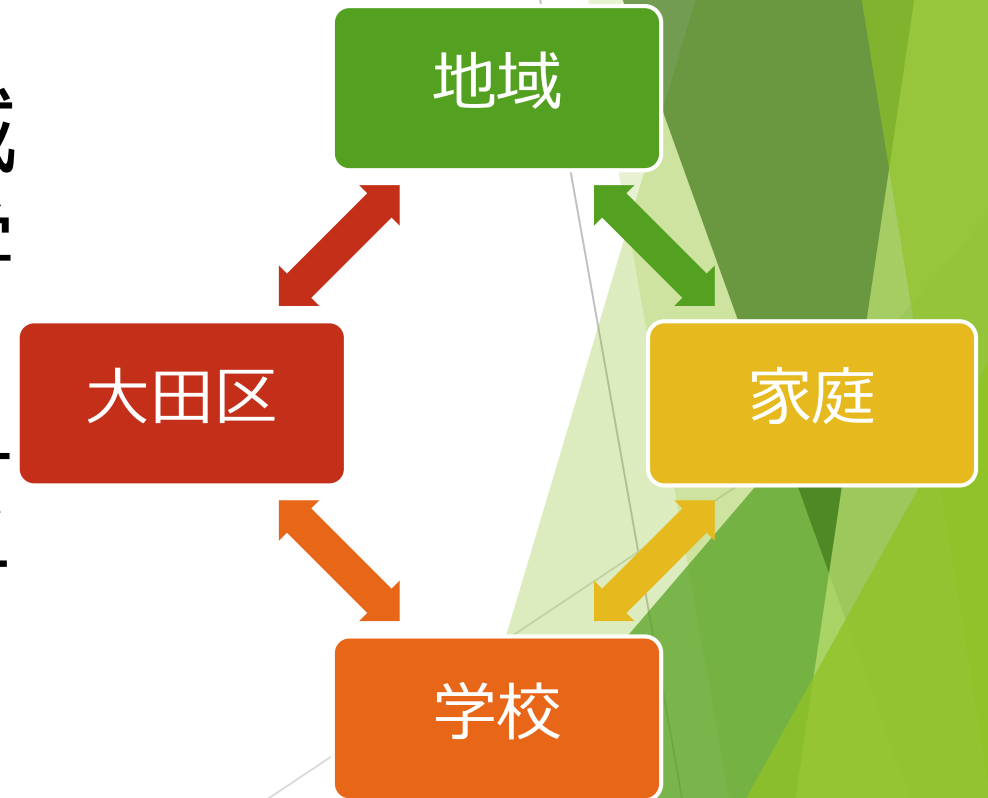
- ・各種許可の申請（道路使用許可・水利使用届・揚煙行為届出等）が必要となる。
- ・会場周辺住民への周知（道路の通行不能、濁り水が発生する可能性）

そういったデメリットを勘案したうえでも、短時間で大きな効果を発揮できる「まちかど防災訓練」を各町会が実施し、住民の防災意識を高めていくことで「災害に強い街作り」につながると考えます。



【地域防災力の向上にむけて】

学校避難所運営協議会長である町会長のリーダーシップのもと、避難所の開設、運営方法及び地域の連絡体制について、大田区、学校、家庭及び地域等が協議し、日頃から協力体制を築くことで、さらなる地域防災力の向上に努めていきます。



【訓練の様子】



【スタンドパイプ表示例】



ご清聴

ありがとうございました